



あなたのキャリアとスキルを
北海道のために。

～キャリア(経験)とスキル(技能)を北海道発展のために！～

この活躍事例集は、各所属・職員のご協力により、ロールモデルとなる道職員のインタビューやメッセージなどをとりまとめたものです。

これまで、女性編(①～④)、派遣編(①～④)、両立支援編(①～③)、中堅職員編(①～②)と、仕事と子育てを頑張っている職員や、様々な分野や地域で活躍する職員の紹介を行ってきました。

今回は、民間企業等での勤務経験を活かして、行政の最前線で活躍している方に、転職のことや仕事のやりがい、地域での生活の楽しみなどを語ってもらいました。

これから北海道職員を目指そうとしている皆さんに、道職員として働くことの魅力やキャリア形成の具体的なイメージについて理解を深めていただけることを願っています。

平成31年2月 北海道総務部人事局人事課

- | | | | |
|---|----------------------------|-------|--------|
| 1 | 保健福祉部総務課 | 主任 | 阪井 麻衣 |
| 2 | オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課 | 主任 | 猪狩 和成 |
| 3 | 環境生活部環境局循環型社会推進課 | 主任 | 佐々木 洋志 |
| 4 | 空知総合振興局空知農業改良普及センター北空知支所 | 専門主任 | 高橋 義之 |
| 5 | オホーツク総合振興局東部森林室森林整備課 | 専門主任 | 吉本 暁 |
| 6 | 総合政策部航空局航空課空港計画 | 主任 | 宮木 康裕 |
| 7 | オホーツク総合振興局保健環境部児童相談室子ども支援課 | 福祉専門員 | 加賀 大賜 |



8	環境生活部総務課	主任	梅田	真裕子
9	渡島総合振興局産業振興部水産課	係長	石本	竜大
10	経済部産業振興局科学技術振興室	主事	吉原	大紀
11	釧路総合振興局建設管理部建設指導課	係長	橋本	幸司
12	後志総合振興局産業振興部商工労働観光課	主査	佐藤	雅代
13	総合政策部地域振興局市町村課	主査	國田	博之
14	釧路総合振興局産業振興部林務課	主任	前畑	圭則
	釧路総合振興局産業振興部農務課	主任	前畑	久美子



保健福祉部総務課 政策調整グループ

主任 ^{さかい} 阪井 ^{まい} 麻衣 (37)

転職したきっかけ (H28年入庁/一般行政C区分)

もともと北海道出身で、大学時代を道外で過ごし、卒業後も道外で就職しました。帰省するのは年に2～3回でしたが、食や自然など、北海道の魅力を実感する中で、やはり北海道が好きで、地元で働きたいという思いがありました。

以前は、国立大学法人で働いていました。大学職員の仕事も、総務・財務・研究推進・学生受入…と幅広く、とてもやりがいのあるものでしたが、様々な分野の人と事業を進める中で、教育・研究機関という立場からだけではなく、もっと広く社会に貢献できる仕事がしたいと思うようになりました。自分が抜けることで、少なからず業務に影響が出ますし、入職時からお世話になった上司や先輩、同僚との関係を思うと、転職することに葛藤もありましたが、色々な人と話をする中で、背中を押してもらうこともあり、最終的に北海道へUターンすることを決めました。

H28.4 上川総合振興局保健環境部名寄地域保健室

健康推進課保健係→企画総務課総務係

最初に配属された健康推進課では、感染症や予防接種、特定不妊治療費助成に関する業務を担当し、申請書類の受付や医療機関からの報告の取りまとめ、市町村の担当者との調整などを経験しました。

次の企画総務課では、庶務や財務、補助金に関する事務を担当し、会計や補助金事務の基本を覚えることができました。

H29.11 保健福祉部健康安全局食品衛生課生活衛生グループ

本庁に異動して最初の食品衛生課では、公衆浴場や建築物の衛生に関する業務を担当しました。補助金や事業登録の申請が重なると忙しい時期もありましたが、関係法令なども勉強しながら、また、獣医師・薬剤師など専門技術員の方々とともに、生活衛生に関する業務を知ることができました。

H30.4 保健福祉部総務課政策調整グループ

現在いる総務課では、庁内の会議・照会事項や要望活動への対応、統計業務を担当しています。政策調整グループの業務内容は幅広く、部内外の様々な業務を知ることができ、やりがいを感じています。前職では、様々な業種の職員と働くことも多く、培った対応力や調整力が活かせていると思います。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

入庁前は、職員も仕事の内容も、粹にはまった少し堅いイメージがありました。しかし、実際に入ってみると、想像していた以上に幅広い業務があり、様々な人との出会いがあり、とても刺激を受けています。また、災害発生時の対応など予想していなかった業務に携わることもあり、そこには、経験と成長のチャンスが溢れていると思います。

■印象に残っている業務

名寄地域保健室では、難病対策地域協議会の立上げに、事務局として携わる機会がありました。開催案内や出欠のとりまとめ、当日の会場準備や議事録の作成を担当しました。当日、事務局として、資料の説明・報告を行ったことは良い経験になりました。また、協議会では、様々な立場の専門家である委員の方々の意見を直接聞くことができ、とても勉強になりました。

食品衛生課では、清掃作業従事者研修指導者講習会で講師をする機会がありました。決められた時間に合わせて話すことは難しく、資料作成など苦労しましたが、自分自身の勉強にもなりました。建築物環境衛生管理技術者、ビルクリーニング技能士といった有資格者、約100名の前で話すのは緊張しましたが、とても良い経験になりました。

■休日の過ごし方

休日は、家でゆっくり過ごすのも良いですが、外に出かけてリフレッシュしたいと思っています。名寄勤務のときは、道北地方をドライブしておいしいものを食べたり、温泉などに出かけていました。自然豊かな山間の道を走るのは気持ちが良いですし、色々な温泉に入って癒されました。また、地域の魅力を探しに管内の観光地などに行くのも楽しみのひとつです。



／全日本玉入れ選手権

【同僚等との関係】

名寄地域保健室では、職場の人に声をかけてもらい、平日の仕事が終わったあとに、テニスやカーリングを始めました。普段、仕事をしているだけでは、あまり関わる機会のない職員とも、職種に関係なく話すきっかけになり、楽しく続けられました。

また、和寒町で毎年開催されている「全日本玉入れ選手権」に、職員でチームを作って参加したことも、良い思い出です。

／名寄市のひまわり畑



これからのキャリアプラン

これまで、短いスパンでの異動により、色々な経験をする事ができました。今後も、幅広い分野で業務を経験し、様々な現場の課題やニーズを把握することで、視野を広げたいと思います。

人や地域との出会いを大切に、道職員として求められる能力にも磨きをかけ、大きな変化の中でも活躍できる職員になりたいと考えています。

転職を考えている人へメッセージ

現在道外にいても、北海道が好き、北海道のために働きたいという気持ちがあるのであれば、ぜひ、U・ターンを検討してみてほしいと思います。北海道職員は、より直接的に北海道のために働ける職業だと思います。



オホーツク総合振興局
地域創生部地域政策課

主査 ^{いがり}猪狩 ^{かづなり}和成 (37)

転職したきっかけ (H27年入庁/一般行政C区分)

私はこれまで植物の基礎研究に従事し、その経験を活かした園芸資材等の研究開発や新規事業の検討、公共事業などで使用される緑化製品の営業販売に携わってきました。そのような中で、産学官が連携した取組を経験する機会が多く、行政の果たす役割の大きさを日々感じていました。

北海道出身の私は、いつか北海道に住めれば良いと漠然と考えていましたが、子どもが育つにつれて、北海道での子育てを考えるようになりました。そんな時、北海道職員の試験を東京で受験できることを知り、転職を検討することにしました。

前職の経験から行政の重要性を感じていた私は、将来、子ども達が住む北海道をより良くする仕事ができ、北海道で子育てができるのであれば、この転職は運命なのではないかと感じました。妻に相談すると同意してくれたため、前職の職場の皆さんにもご理解をいただき転職をするに至りました。

H27.4 総合政策部交通政策局交通企画課

交通企画グループ→地域交通グループ

本庁の交通企画課で2年間、乗合バスに対する補助金事務を主に担当しながら、公務員としての基本的なスキルを身につけました。そのような中、北海道新幹線開業のお手伝いをしたことは、私にとって大変貴重な経験でした。

H29.4 オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課

現在は、JR北海道の事業範囲の見直しに係る地域協議や利用促進の取組、生活交通として重要な役割を担っているバスの利用促進や運転手確保に向けた取組など、主に地域の交通政策に関する業務を担当しています。

前職の研究開発や新規事業検討の経験で培った論理的思考、文章・資料作成やプレゼンテーションの能力は、今の業務でも基本的な能力として役立っていると感じています。また、担当業務のほとんどが市町村や事業者などの関係者の協力がなければ前に進まないものが多く、前職での営業職時代のコミュニケーションスキルは、行政として様々な取組を進める上でも非常に役立っていると感じています。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

道職員に限らず公務員というと、生き生きと仕事をしている人は少ないイメージでしたが、転職後にすぐに感じたことは、一生懸命に北海道のことを考え、地域を飛び回って生き生きと仕事をしている優秀な方々がいるということです。

また、部内のボウリング大会後の懇親会では各課からの催し物等もあり、私の所属では当時流行していた「恋ダンス」を、忙しい中、業務終了後に皆で毎日30分間練習して臨むなど、職員同士の交流も非常に多い職場だと感じました。

■印象に残っている業務

転職後、私は北海道で広域的に運行している乗合バスに関する業務を主に担当しました。乗合バスは地域住民や観光客にとって重要な公共交通ですが、利用者の減少や運転手不足など、多くの課題を抱えています。そのような中、私は本庁時代に、乗合バス事業の活性化に向けたモデル事業の予算要求を担当しました。振興局に異動してからは、利用促進のモデル事業を現地で担当しました。関係者とともに検討を進め、観光施設等のクーポンがセットになった乗合バスのフリーパスを事業者に販売していただくことになり、地域が一体となった取組を進めることができ非常に良かったと感じています。

私自身が何かを形作った訳ではありませんが、北海道をより良くしたいという思いに、関係者の皆さんも積極的に協力していただけたと感じています。

【同僚等との関係】

道職員になって感じたことの一つが、この職場は飲み会が好きなお方が多いということです。

もちろん無理に誘われることはありませんが、「飲みに行きませんか？」と良く声をかけてくれます。転職後は分からないことも多く、業務中に聞きづらい場面もあるので、このような職場環境は楽しく、大変助かりました。



／家族で網走観光してきました！／



／「あばしりフリーパス」で観光／

■休日の過ごし方

私と妻の地元である北海道に帰ってきたことによって、親戚との交流を増やすことができ子ども達も喜んでます。振興局に異動してからは、近隣市町村のお祭りやイベントがとても多く、妻子を連れて芝桜やチューリップなどの花観光や冬は流氷観光など、休日も充実した日々を過ごしています。市町村のイベントなどでは、業務を通じて知り合った関係者の皆さんにも会えて、より楽しくイベントに参加しています。

これからのキャリアプラン

私は将来、北海道が抱える様々な課題に対して、道と市町村等の関係者が密に連携した主体的な取組を強く進めるリーダーシップのある道職員になりたいと考えています。民間経験も活かした産学官連携や民間との協働に係る業務など、幅広い経験を積みながら、総合的な政策について提言ができるような広い視野と調整力をもった道には欠かせない人材になりたいと考えています。

転職を考えている人へメッセージ

北海道出身の方であれば、地元へ戻ることに不安感はないかもしれませんが、新たに北海道へ移住する方にとっては、仕事よりも北海道に住むこと自体に大きな不安があるかもしれません。転職をして北海道に帰ってきて、改めて北海道はとても良い場所だと私は感じました。より良い北海道の未来を創るために一緒に働きませんか！



環境生活部環境局循環型社会推進課 環境保全グループ

主任 佐々木

ささき

ひろし
洋志 (35)

転職したきっかけ (H30年入庁/環境科学C区分)

神奈川県生まれの私は、大学で初めて北海道に来ました。そして、学生生活の中で人・自然・食の素晴らしさに惚れてしまったのです。社会人になり東京で勤めていた時も、北海道の妻の実家に帰る度に、「北海道で生活できないかな」と漠然と考えていました。

前職は化学メーカーで、水処理膜の営業として9年間勤めました。水処理業界は注目されているものの、市場規模は決して大きくなく、また技術も一定水準に達しており製品の差別化が困難でした。仕事は海外とのやりとりも多く充実していましたが、別の業界を経験したいと思うようになり転職活動を始めました。

そんな中、知人から北海道で当時初めて環境科学分野の技術職で経験者採用が行われることを教えてもらいました。道職員はこれまでの経験を活かしつつ、北海道で生活し、幅広い業務を行える、まさに希望通りの職と思い応募しました。

道への転職にあたって、妻は仕事を辞める必要があり、仕事を続けたいという思いを持った妻としては悩みましたが、2人目の子どもが生まれるタイミングで実家のある北海道に帰れるということで理解を得られました。

H30.4 環境生活部環境局循環型社会推進課環境保全グループ

採用以来、ポリ塩化ビフェニル（人体に有害な油「PCB」）廃棄物対策をメインとして、航空機騒音対策、ゴルフ場などの農薬対策の業務を担当しています。

特に廃棄対策について、全国で5か所しかない処理施設のうち1か所が室蘭市にあり（ここで1都1道18県の廃棄物を処理）、施設の立地自治体として道内廃棄物の確実かつ適正な処理促進のほか、環境省や関係市町村、関係都県市へ早期処理促進のための啓蒙活動も実施しています。

具体的な業務例としては、①補助金業務（制度設計、審査、補助金交付）、②全道の現場担当者や道民からのPCBに関する問合せ対応、③PCB廃棄物所有者の把握調査、④年間8回以上ある会議の事務（テーマ検討、スケジュール調整や事前協議、資料作成・報告、司会進行）など、一般的な企業における企画のような仕事をしています。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

公務員というと、真面目で融通が利かない人を想像しがちです。法律を遵守し、実行するという仕事である以上、そういった面はありますが、実際に働いている方々はきちんと現実を捉えた上で法を解釈し、関係者が納得できるようにあらゆる事を想定しながら仕事を進めており、目的のためには新しい事業を興すなど、決して想像どおりではないと感じています。

ただし、あらゆる事を想定する必要がある、慎重さも求められます。この点で言うと、部署にもよりますが、今の自分の部署はスピードを重視し、走りながら考える民間企業とは異なる面があると感じたところです。

■印象に残っている業務

PCB廃棄物処理は、関係者が多いため目的に沿って複数の会議体があり、全ての事務局を担っています。資料作成、関係者のスケジュール調整・管理、会議での発表、懇親会での立ち振る舞いなど、前職の営業としての経験が、あらゆる面で応用できています。

営業では製品の前にまず自分を売り込むことが重要と言われますが、啓蒙活動でも、自らが率先して必要な施策を行う姿勢がフォロワーを生み、課題解決が前進します。人が行う仕事なので、根本は一緒です。ある懇親会で、会議の場では質問されなかった他県の方から質問がありました。せっかくの機会と思い、テーブルにいた方全員に道が行っている先事例について、何故そうしたのか、理由も含めて説明しました。その後も、その方々からは前向きなお話をいただいております、道の姿勢が伝わったのだと手応えを感じています。

＼新規採用職員のみんなで！／



【同僚等との関係】

環境生活部では、新規採用職員が課の垣根を越えてテーマ(課題)を設定し課題解決力を育成する独自研修が設けられています。経験者採用メンバーも多く、年齢、性別、経歴関係なく意見を出し合い目標に向かって活動しています。終業後に打合せと称してお酒を飲みに行き、そこでの会話が研修内容のブラッシュアップに繋がったりしています。

もちろん、課内の同僚、上司との飲み会もあり、仕事のことからプライベートまで遠慮なく相談できています。

■休日の過ごし方

前職では帰宅後や休日でも場合によっては深夜までメールチェックや資料作成等をしていましたが、道職員になってからは、転職時の希望どおり家族、特に子どもたちと過ごすことができます。浄水場で水遊びをしたり、下水道記念館で工作したり、さくらんどで走り回ったり、サケ科学館で色々な生物と触れ合ったりと公共施設をよく利用しています。無償とは思えない魅力的な設備にも関わらず、関東とは異なり、どの施設も人が多すぎてまともに遊べないといったことがなく、子どもはのびのびと遊んでおり、親もストレスが少なく大変助かります。

これからのキャリアプラン

私はこれまでのキャリアから、環境技術職で採用されていますので、環境に関する仕事を中心にしたいと考えています。ただ、行政の仕事は本当に幅広く、環境といっても総合政策部、経済部、建設部、農政部など他の部にも関係した仕事があります。そのため、環境を軸に多様な経験を積んだジェネラリストを希望しています。そして、道職員はそれができる環境にあると考えています。

転職を考えている人へメッセージ

公務員というと、ルーチンワークを淡々とこなしているようなイメージがあるかと思います。確かにそういった仕事もありますが、それは民間でも同じであり、少子高齢化の中でルーチンワークはいずれAllに置き換わっていくでしょう。では我々の真の仕事は何かというと、多様化した行政へのニーズに対して、北海道のその先を見据え、道筋を示すことです。与える影響は非常に大きく、一民間企業の枠にとられない、非常に充実感のある仕事だと思います。



空知総合振興局産業振興部空知農業改良
普及センター北空知支所地域第二係

たかはし よしゆき
専門主任 高橋 義之 (40)

転職したきっかけ (H28年入庁/普及職員(農業) C区分)

大学卒業後15年間JAに勤め、主に組合員の営農をサポートする部署に長く勤務しました。しかし、限られた地域や組合員だけではなく、広い地域の農業者に接し、地域農業の振興・発展に向き合える普及指導員に魅力を感じ、転職を決意しました。

転職にあたっては、家族の承諾を最優先し、両親とも話し合いました。お世話になった職場、住み慣れた町を離れる不安、3人の子どもの学校、生涯年収など、なかなか簡単には踏み切れない問題ばかりでした。

特に、長年お世話になった職場を後にすることは、後ろ髪をひかれる思いでした。そのため、できるだけ職場に迷惑がかからないようにとの思いから、受験前に転職する旨を職場に伝えました。いわば、「退路を断って」の決断でした。採用に至るまでの一年間、不安がありましたが、その分だけ必死の思いで受験に取り組めたと思います。

H28.4 空知総合振興局空知農業改良普及センター

北空知支所地域第二係

園芸作物(花・野菜など)の担当者として、加工用トマト栽培などの課題解決に取り組んでいます。農業改良普及センターは、「地域や農家と共に歩む」ことを基本として、地域の農業者や関係者と寄り添いながら地域課題の解決に取り組む仕事です。そのため、直接農業者に接する機会が多くあります。前職で、農業者と多くの時間を過ごし、関係機関・団体と共に活動する機会が多かったため、コミュニケーションを図ることには戸惑いはありませんでした。

しかし、普及指導員にはコミュニケーション能力だけではなく、作物栽培に関する専門的な知識や技術が要求されます。特に、所属する北空知管内は、北海道の米どころですし、米だけではなく畑作物や花・野菜・果樹など多岐に渡る経営形態があります。それらに 대응するためには、日常的に情報収集や知識の蓄積などが不可欠です。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

入庁前に普及指導員に抱いていたイメージは、「ひとりでなんでもこなすスーパーマン」でしたが、入庁後、農業改良普及センターが非常に組織的に仕事をしていることに驚きました。農業者や関係者を訪れる前には、所内で各担当者が、仕事の目的・経過・目標について幾度も話し合い、車中では地域農業の歴史や作物栽培の背景について情報共有するなど、現場に着く直前まで入念な準備をします。確かに、職員の中には、高い専門知識と幅広い応用力、そしてユニークな個性で誰からも好かれる「スーパーマン」がいますが、そうした方ほど常に連携・協力を心がけているように感じます。

■印象に残っている業務

農業改良普及センターでは、担当地域のニーズをより具体的かつ総合的に捉えた地域重点課題の活動を展開しています。この仕事は、個々がお互いに足りない知識や経験を補い合い、地域の振興・発展に向けてセンターの総合力を発揮するチーム活動であり、私のような未熟な普及指導員でも、前職の経験を活かし、色々な観点から地域の農業者や関係者と話ができます。このことにより、前向きな気持ちで業務をすることができ、転職後の業務に対する不安が緩和されました。

■休日の過ごし方

休日は、子どもが所属する少年団の応援に出かけたり、担当地域の農業イベントやお祭りに家族揃って参加したりしています。私の担当地域の沼田町には、道内唯一の喧嘩あんどんが見られる、「夜高(よたか)あんどん祭り」があり、山車の担ぎ手として毎年参加し、地域の方々と楽しく交流しています。

また、道庁クロスカントリースキー同好会に入会し、夏は体力づくりを兼ねて各地のマラソン大会に出場したり、冬は湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会に出場し、住民の方々の温かい応援を背に、広大な雪原を進むなど、充実した休日を楽しんでいます。

「夜高あんどん祭りに担ぎ手として参加」



「丘のまち・びえいヘルシーマラソン」に参加



【同僚等との関係】

私がいる北空知支所は深川市に拠点を構え、1市5町を担当区域として25名の職員が勤務するとても賑やかな職場です。

職業柄、農作物の栽培・加工に携わる仕事が多く、食味試験をはじめとした旬のイベントが盛りだくさんです。また、休日は、上司や同僚と道内各地の特産品・農産物を持ち寄り、試食・試飲をするなど、プライベートも楽しいイベントが多く、とても充実しています。

これからのキャリアプラン

先輩や農業者の方々から学んだ「信頼される普及員になる3つの心得」を心に留め、これからも働きたいです。

- ① 笑顔を絶やさない……………印象が良ければ、農業者はどんなに忙しくても、トラクタのエンジンを止め、手を休めて接してくれる。
- ② 身だしなみはキチンと……………見た目が大切。だらしない格好だと「この人にモノを頼んでも大丈夫かなあ？」と不安がられてしまう。
- ③ 用件はできるだけ短く簡潔に……………農作業の手を止めると作業の遅れやタイミングを逃すことにつながることもあるので、できるだけ用件は簡潔に。

転職を考えている人へメッセージ

たまたまこのパンフレットを手にした方、そうでない方、この記事を書いている私も含め、全員に共通することは「人生は一度きり」だということです。転職を考えている皆さんが、いま働いている勤務先の内外で築きあげた「自分」と改めて向き合う機会がありましたら、是非この言葉を思い出していただければ、幸いです。



オホーツク総合振興局東部森林室
森林整備課森林整備係

よしもと さとる
専門主任 吉本 暁 (41)

転職したきっかけ (H28年入庁/林業C区分)

最初の就職先は、学生時代に林学を専攻していたこともあり、林業関係の会社で社有林管理などを行っていました。次の職場は実験動物関連の会社で、総務や経理、技術、営業などの仕事を行っていました。

ある日、知り合いが社会人枠で公務員試験を受験すると聞いたのをきっかけに、北海道でも社会人枠が増えているらしいということを知り、HPを見たところ、なんと「林業職」も社会人枠ができていたことが分かりました。年齢的(受験時37歳)に合格は難しいかなとも思いましたが、林業関係の仕事に戻る最後のチャンスだと考え、ダメもとで応募したところ、合格しました。

家族に相談した際は「是非受けてみるべきだ」、という反応が返ってきたので安心して応募できました。転勤は大変な面もありますが、色々な場所に住むことができるし、そもそも自分の好きな仕事ができることが一番だと、後押ししてくれました。北海道の森林は社有林のあった紋別市周辺しか知らなかったため、全道に道有林がある北海道に非常に魅力を感じました。

H28.4 オホーツク総合振興局東部森林室森林整備課

森林整備係

採用からこれまで道有林の立木販売業務を担当しています。入庁するまで立木の販売を行っていることは全く知らず、びっくりしたことを覚えています。

1年目は立木伐採の許可を得るための保安林申請業務、2年目は立木販売業務、3年目は販売数量や金額算出の基となる立木調査の委託業務などを担当しました。毎年、新たな業務を担当させてもらっていることは自分にとって非常に大きな財産になっています。前々職で林業を行っていたため、現在の業務は特に大きな戸惑いもなく行うことができます。覚えなければいけない規則がたくさんあることには少々戸惑いましたが…。

現在の業務は、入札や契約などの時期になると、とても忙しくなります。設計書や図面の作成であつという間に時間が過ぎてしまうため、他の職員に協力してもらいながらやり遂げています。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

入庁するまでは堅い人が多いイメージを持っていましたが、実際に入ってみると全然違いました。1年目から非常にかわいがってくれる先輩がいて、油断していると次々と物真似や冗談を言うてくるなど、楽しませてくれました。おかげでリラックスして業務を行うことができました。業務についてもガチガチに決まったことを行うイメージでしたが、時と場合によって柔軟な対応が必要ながよく分かりました。

■ 印象に残っている業務

最初に担当した保安林申請業務が印象に残っています。基礎知識が全く無かったため、法令や要領、参考本などにらめっこしながら申請書類を作成したことを思い出します。法令や要領などに不慣れでしたが、この業務を通じて、法令や要領などの読み方を身に付けることができました。また、道有林の大部分は保安林に指定されているため、その後の業務でも、この時に身に付けた知識が役立っています。

申請書類の作成の中で、前任者は申請図面を手書きで作成していたのですが、時間もかかり、間違っていた時の修正作業に大変労力がかかるため、先輩の助言もあり地理情報システム(GIS)ソフトを使用して作成することにしました。前々職で、GISソフトを使用していたので、その経験を活かすことができました。直接ではないかもしれませんが、これまでの職場で身に付けたことが役に立つことがあると思います。

【 同僚等との関係 】

夏は親睦野球大会に向けて、昼休みにキャッチボールをしたり、終業時間後にグラウンドを借りて練習をしたりと、十数年振りの野球を楽しくやっています。

冬には仲の良い先輩が出場する、というのでクロスカントリースキー大会に出場し、60kmを完走しました。非常に過酷な大会でしたが、その先輩と一緒に励まし合いながら滑り、休憩ポイントで地元の人が提供してくれるおでんやサンドイッチなどを食べて気力体力を回復させ、なんとか完走できました。



現場で打合せ中

＼ 野球大会での集合写真／



■ 休日の過ごし方

基本的にはインドアな人間なので、家で本を読んだり、野球や映画を観たりして過ごすことが多いです。以前もオホーツク管内に住んでいたのですが、いろいろと観光名所には行ったことがあったのですが、あらためて網走監獄に行き、そこに設置されている人形の精巧さに感動したり、中央道路を人力で開設したという歴史などを聞き感銘を受けたりしています。水平線が見えなくなるほどの流氷も一見の価値ありですよ。

これからのキャリアプラン

採用された際に、道有林の森林整備業務を希望したところ、その希望どおりに道有林へ配属されました。道有林の先輩は非常に技術を持っている方ばかりなので、今はその技術を習得している最中です。今後も道有林の森林整備業務に携わり、将来はその技術を若い人たちにも伝えていけるような道職員になりたいと思っています。また、民有林からお手本とされるような道有林のあり方を自分なりに模索しながら業務を行っていきたいと思います。

転職を考えている人へメッセージ

今の職場は、自分のやる気次第でいろいろな業務を担当させてもらえますし、周りの職員の方たちもしっかりサポートしてくれるので、非常に良い職場だと感じています。民間企業とは業務の目的が全く違うため、頭の切り替えが必要になりますが、前職とは違った「やりがい」を感じることができると思います。 10



総合政策部航空局航空課
空港計画グループ

みやき やすひろ
主任 宮木 康裕 (35)

転職したきっかけ (H27年入庁/総合土木C区分)

前職は道外の電力会社で技術職として働いており、電力設備に係る土木施設建設の計画立案や工事監理、また、技術開発業務などに携わっていました。

しかしながら、いずれは自分が生まれ育った北海道に戻って、北海道のために働きたいと思っていたことから、30歳になったことを機に、転職を決意しました。

北海道での仕事を探していたところ、北海道庁の採用サイトを見て、社会人経験者（C区分）の総合土木分野で募集があることを知り、これまでの自分の経験を活かせる仕事だと思い、応募しました。

H27.4 後志総合振興局小樽建設管理部真狩出張所道路係

初任地では、見通しが悪く事故の多い道路の改良事業や老朽化した道路橋の点検、補修事業などを担当しました。工事発注の設計、積算業務や工事工程、コンサルタント会社との技術的な打合せ、事業を円滑に進めるための地域住民の方々や市町村役場との打合せなどの場面で、前職での経験を活かすことができました。

H30.4 総合政策部航空局航空課空港計画グループ

現在は、道が管理する空港の整備事業や維持管理業務の総括、関係機関との調整を担当しています。航空機が離着陸する滑走路などは、ひとたび事故が起こると人命に関わる重大事故に繋がってしまいます。空港を利用する方々の安心・安全を確保するため、現場の点検結果を基に整備計画を立案しています。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

予算管理や内部調整などのデスクワークや打合せに時間の大部分を費やし、現場に赴くことはほとんど無いと思っていました。しかし、実際は自分の担当する工事現場に赴き、進捗状況や品質を確認したり、住民の方々から、地域の要望を直接聞いたりする機会も多くありました。

また、職場の人間関係については、分からないことは丁寧に教えてくれる先輩がいて、忙しいときはみんな協力するなど、周囲のサポートがしっかりしていて安心して働ける職場でした。

■印象に残っている業務

後志の真狩出張所で勤務しているとき、地域の要望を基に、子どもたちが安心して利用できる通学路となるよう、歩道の整備を行いました。計画段階から携わった事業で、周辺住民の方々や地元役場など関係機関との合意形成に苦労しましたが、地域の方々の切実な声に触れ、自分の仕事がそこで暮らす方々の役に立つのだと実感したこともあり、とても印象に残っています。

＼後志のニセコアンヌプリ登頂！／



【 同僚等との関係 】

真狩出張所勤務の時は、同じ公宅に住む仲間とジンギスカンを食べたり、登山をしたり、仕事以外でも多くの時間を共有する機会がありました。また、地域のスポーツチームにも参加し、そこで仲良くなった仲間とは、本庁に異動してからも連絡を取り合い、飲み会で情報交換などを行っています。

現在は、部内の各課対抗ボウリング大会やソフトボール大会など、異なる所属の仲間と知り合える機会も多くあり、楽しい毎日を送っています。

■ 休日の過ごし方

休日は家族と一緒に果物狩りに行ったり、近隣市町村の観光スポットや名産グルメ巡りをしていました。特に、冬の後志地方は、ここが日本だとは思えないくらい外国の方がとても多く、印象に残っています。



／利尻空港と利尻富士＼

➡ これからのキャリアプラン

前任地では道路、現在は空港という異なる分野での仕事ですが、社会資本の整備を通して、人々の役に立つことができるという点で共通しています。建設分野においては、老朽化設備の増加や技術者不足など、課題も多いですが、これからも職場の仲間と協力しながら、地域の暮らしを支える仕事に携わっていきたいと考えています。

転職を考えている人へメッセージ

公務員の土木技術者としての仕事は、事業の計画段階から最後の維持管理まで、上流工程から下流工程までの全てに携わることができます。このことは、事業の全体像を考慮する必要があり、難しい面もありますが、同時に魅力でもあります。



オホーツク総合振興局保健環境部
児童相談室子ども支援課

かが たいし
福祉専門員 加賀 大賜 (37)

転職したきっかけ (H28年入庁/社会福祉C区分)

私は、子どもの頃から「子どもと関わる仕事がしたい」と思っており、保育の専門学校を卒業後、児童養護施設に勤めましたが、そこで自分自身の未熟さを痛感するとともに、「子ども達が施設に入所する前の段階に関わりたい」との思いを強く持ちました。その後は、知的障害者施設や地域包括支援センターなど、それまで自分とは接点の無かった世界で対人援助や権利擁護を学び、その経験の中で幾つかの資格も取得しました。

35歳になる時に、「家族(当時、息子は幼稚園の年中でした)のことを考えると、子どもと関わる仕事に戻るのは今しかない」と思い立ち、妻や両親にもその思いを伝えました。「道職員であれば、将来のビジョンも持ちやすく、これまでの自分の経験も活かせる」という話をした記憶があります。何より、妻が「やりたいことをやるべき」、「人生を賭けるのでしょ」と発破をかけてくれ、私の勉強時間を作るため、休日も子どもの面倒をみたり、面接の想定問答集を作ったりなど、積極的に協力してくれたおかげで、道職員になりました。今までも、これからも妻には頭が上がりません。

H28.4 オホーツク総合振興局保健環境部児童相談室子ども支援課

児童相談室(北見児童相談所)の児童福祉司として勤務が始まりました。「親や子どもが抱える課題を明確にし、その対応策を講じる」と、文字にしてしまえば簡単ですが、それが本当に難しく、上司や先輩職員の助力を得ながら何とかこなしているという感じでした。

2年目からは、児童虐待に対応する「虐待専掌」となり、自分自身に課せられている役割は「子どもの安心安全を守る」「児童虐待を再燃させない」と、より子どもの利益や安全に直結する内容となり、市町村や関係機関と協力しながら業務を行っています。

他の業務でも同じことが言えると思いますが、児童相談所の業務も外から見ていた以上に多岐に渡ります。市町村支援、一時保護、措置等の各種機能を持ち、どの職員も「子どもの福祉、権利を守る」というぶれない軸があるため、それに向かって業務に励んでいます。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

私の父が道職員であったため、「事務処理」、「議会」等の勝手な父のイメージが、私の「道庁のイメージ」になっていました。

しかし、実際に勤務してみると、外に出る機会、地域との関係機関と一緒に仕事をする機会が多くあるため、私の道庁のイメージは一新されました。また、事務に関しても上司から「対人援助と違って顔は見えないが、道民のための仕事だ」と言われたこともあり、現在は、私が行っている仕事は全て道民の方々、北海道に繋がっているとの意識があります。

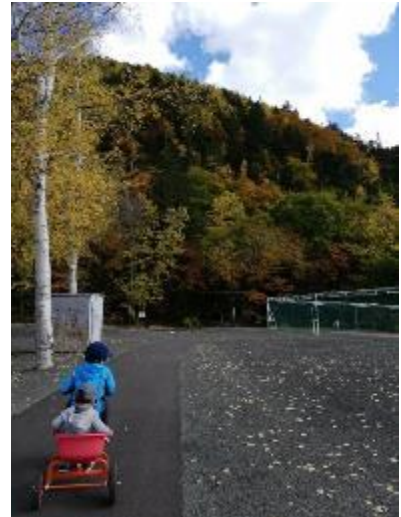
■印象に残っている業務

平成29年から児童虐待の対応をしていますが、一時保護をした際に、子どもが「安心した」と語った時には、私自身も大きな安堵感を得るとともに、子どものこれからを早く考えなければという使命感にも似た感情がわきます。虐待を受けている子どもを一時保護する時にも、市町村や警察、学校など様々な機関の協力が必須であり、それらの機関と連携してケース対応を進めていく場面では、関係機関をコーディネートする前職での経験が活きていると感じます。

また、これまでの職歴で得た経験や知識は「北海道のための仕事」と大きな枠で考えた時には、一つも無駄になることが無いとも感じます。私の場合は、前述した以外にも「対人援助(面接)」や「権利擁護(警察との連携)」も、現在の「子どもの安全安心を守る」という業務には欠かせないものです。

■休日の過ごし方

休日は、主に「子どもと過ごす時間」としてしています。平日には接する機会が少ないため、休日は思いっきり子どもと遊ぶことで、自分自身もリフレッシュしています。また、妻は「産後ケアのボランティア」等に参加し、積極的に地域の方々と交流をしているため、無趣味な私が地域の方と繋がる機会ともなっています。妻が外出している休日は、私と息子2人で外出をするため、「男3人衆旅」と命名し、息子達にも好評です。



／男三人衆の旅！／

【同僚等との関係】

北見児童相談所には任意参加の「ボウリング友の会」があり、毎月1回みんなでボウリングで汗を流した後に、北見市名物の焼き肉を食べることが定番のコースになっています。

また、北見市には「厳寒焼き肉」という一大イベントがあり、毎年同僚らと参加しています。タレも凍る寒さの中で食べる焼き肉は、美味しさは正直わかりませんが、「これで北見市民になれた」と思えるイベントです。



／職場のボウリング大会／

これからのキャリアプラン

これまでの職歴を活かして「揺りかごから墓場まで」を支援できる職員になりたいと思っています。私は、社会福祉卒での採用ですので、自身のキャリアを考えた時に、まず思うことは、今後も北海道の社会福祉という世界の中で仕事ができることが楽しみということです。また、上司から言われた「北海道民のため」を常に意識し、これから出会う後輩達にもそれをきちんと伝えられるような良い先輩になりたいです。

転職を考えている人へメッセージ

道職員といえば「転勤」や「単身赴任」のイメージがあると思いますし、実際に私の周囲にもそういう方は多いです。しかし、私の母や妻は「故郷が増える感じ」と言っており、私も出会う人との縁やそこから得られるものは何にも代え難く、ネガティブなことだけではないと実感しています。転職を考えている方は「北海道が好き」というベースがあると思うので、一緒に好きな北海道のための仕事ができればと思います。



環境生活部総務課
企画調整グループ

主任 うめだ 梅田 まゆこ 真裕子 (37)

転職したきっかけ (H28年入庁/一般行政C区分)

私は2度の転職を経て道庁に勤務していますが、直近では全国展開する金融・物流等の企業の本社に勤めていました。当時は、法務担当、新規取扱いの金融商品の業務策定、そして店舗の責任者を務めるなど、仕事には達成感のある生活で、その間、北海道と東京の間で転勤を繰り返していました。

元々、地元の札幌が大好きで、ずっと帰りたいとは考えていましたが、北海道に勤務していたあるとき、ふと転職のことを考えるようになりました。「次の勤務地は必ず東京本社、その後の異動は数年後で、今度は全国どこなのか…。」そう考えたとき、生活の拠点を北海道にしたいと、ならばやはり北海道を支える道庁で勤務したいという思いに至ったのです。もちろん、踏ん切りがつくまで相当時間がかかりましたし、前の職場からは引き留めてもらい、キャリアがもったいないとも言われましたが、家族がとても喜んでくれたので、決心して転職に臨むことができました。

H28.8 環境生活部くらし安全局道民生活課女性支援室

男女平等参画グループ

年度途中の採用でしたが、道民生活課女性支援室に配属になり、男女が平等に参画できる社会づくりへの取組に関する調査や道の表彰業務などを担当し、この間に、道庁の仕事のルールを学びました。

H29.4 環境生活部総務課総括グループ→企画調整グループ

環境生活部総務課に異動して1年目は、総括グループで、部長など幹部のスケジュール調整などを行う部長書記の業務を担当しました。

2年目の現在は企画調整グループに所属し、部の広報や団体等からの要望対応や、各課の取りまとめなどを行っています。直接事業は持っていませんが、多岐に渡る部内の仕事に関わるため、知識を増やすチャンスと思い業務に努めています。

私は特に専門的な知識もスキルもありませんが、これまで社会人として身につけた職場マナーや仕事のこなし方、考え方などを役立てながら、民間企業とは違う行政の仕事の進め方を吸収しようと日々学んでいます。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

最初に道庁を訪問したとき、節電で事務室内の点灯を抑えているせいもあったかもしれませんが、暗い中で黙々と静かに業務をこなしているイメージを持ちました。

しかし、働き出すと仕事を一人で黙ってするということはほとんどなく、たまに雑談や笑いも交えつつコミュニケーションが取りやすい職場でした。

また、課内カルタ大会や、部全体でのソフトボール大会・ボウリング大会など各種レクもあり、とても盛り上がっています。

■印象に残っている業務

総務課総括グループで担当した部長書記の仕事がとても印象に残っています。

部内はもちろん対外的なお客さまも多く訪問されるため、来客対応や電話対応、身だしなみのマナーでは、失礼がないようにすることが特に求められる仕事ですが、前職での役員秘書の経験が役に立ちました。

業務で使われる言葉など、見るもの聞くものが初めてのものばかりでしたが、フォローをいただきながら、様々な案件の理解を深めつつ、幹部の日々の予定をスケジュールリングしていました。その中で、道議会の動きや、部全体の体制、各課の業務の流れなどを知ることができ、貴重な経験ができた1年でした。

■休日の過ごし方

これまで仕事しかしてこなかったもので、転職を機に何かしたいと思い、音楽活動とサークル活動を始めました。音楽活動は毎週の練習やライブ、サークルは自分で立ち上げたウィンタースポーツサークルで仲間を増やして楽しんでいます。

また、長期の休暇には家族で温泉旅行や、父とは海外までスキーにも行くなど、家族と一緒に過ごす時間も大切に持つようになっています。



／職場でのクリスマス／

／音楽活動でのライブ／



【同僚等との関係】

周りの方々からたくさんのサポートをもらいつつ、日々新しいことに取り組んでいます。質問しやすくコミュニケーションが取りやすい職場環境なので、ストレスを感じずに、のびのびと仕事をしています。

また、部の行事やレクで盛り上がったり、飲み会をしたりと、職場とは違った雰囲気や話題で親睦を図っています。部内だけでなく、仕事で関わった他部の方とも交流を持っています。

これからのキャリアプラン

道の業務内容は幅広く、まだまだ知らないことばかりですので、視野を広げるために様々な分野の経験を積みたいと考えています。自分の担当業務が北海道にとってどのような影響や効果があるかを意識し、個の業務にとらわれるのではなく、全体を俯瞰して行動できる職員になりたいと思います。また、仕事の質を保つためにも、プライベートの時間はしっかり充実させて、柔軟な思考と知識を吸収し続けられるようバランスのいい働き方を意識していきたいです。

転職を考えている人へメッセージ

新しいことにチャレンジすることは不安を伴いますが、悩んでいるうちに時間が経ち、歳もとります。現状に慣れ、諦めて取り返しがきかなくなる前に、描いた将来ビジョンを実現するためには、何を優先すべきか考えてみてください。目標に届くためなら、怖いものはないはずです！



渡島総合振興局産業振興部水産課

漁政係長

いしもと りゅうだい
石本 竜大 (47)

転職したきっかけ (H28年入庁/水産C区分)

さまざまな経験をしたという思いがあり、これまでも何度か転職しています。北海道の大学を卒業後、民間の水産会社に就職し、その後、水産関係の専門紙の記者、市役所職員を経て、道庁へと転職しました。勤務地も、東京、北海道、九州と様々です。ただ、振り返ってみると、関西出身なのに北海道の大自然にあこがれ、大学生生活をスタートさせたのが、北海道との縁の始まりになったと感じています。

学生時代も、社会人になってからも、一貫して「海」との関わりがあったので、道庁で水産系の技術職員を募集していることを知った時には、すぐ応募しました。北海道の漁業生産量は全国の4分の1を占めており、大きなやりがい求めて転職を決めた次第です。

家族にとって引越や転校は大変ですが、妻が北海道出身ということもあり、これまでの転職より喜んでくれています。現在、初めての単身赴任中で、不安もありましたが、メリハリのある家族との付き合い方を楽しむことができています。

H28.4 水産林務部総務課水産企画グループ

↓ 1年目は、北海道水産白書の作成を担当しました。この一冊を読めば、北海道水産業のおおよその全体像が分かるという重要な刊行物で、「見る側」から「作る側」になり、道の職員ならではの仕事に充実感を得ながら、身の引き締まる思いで取り組みました。

H29.4 水産林務部水産局漁業管理課資源管理グループ

↓ 2年目は、漁業管理課の予算・決算事務を担当しました。厳しい財政状況の中で、予算を獲得するためには、その事業の必要性を客観的かつ緻密に理論化することが求められ、ここでの経験は、道庁のすべての業務に通じるものであることを学びました。

H30.4 渡島総合振興局産業振興部水産課漁政係

現在は、渡島管内で水揚げされるブリの消費拡大が大きな仕事です。生産者、加工業者、行政などが一体となって函館産ブリの認知度向上に取り組んでいます。事業を推進していくうえで、やはり行政が担うべき役割は大きいと実感しています。各種イベントなどの時期は忙しくなりますが、周囲の協力もあり楽しく仕事できています。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

想像していた以上に、一人ひとりに与えられている裁量が大きいという印象を持っています。その分、やりがいがありますし、一方で、それに見合った責任も感じているところです。

また、転勤があることに少しマイナスイメージを持っていましたが、各地の振興局でしか味わえない業務があり、せっかく広い北海道に住んでいるのだから、今ではそれを経験しない手はないと思っています。

■印象に残っている業務

現在、渡島管内で水揚げされるブリの消費を拡大させる事業に取り組んでいます。ブリ料理のコンテスト開催、イベントでのブリの照焼き販売、加工業者にブリを使った新商品の試作の働きかけ、水産高校でブリを使った製造実習の企画など、内容は多岐にわたります。これらを進めていくためには、漁協や水産加工業者をはじめ、市町村、教育・研究機関の協力が不可欠です。そのため外部の方と接する機会が多く、民間での営業経験が役に立っています。事業を通じて新たなネットワークができ、その輪が広がっていくことを実感できるのは私にとって非常にうれしいことです。また、この事業のことを新聞やテレビで報道してもらえることがあります。多くの人に渡島のブリのことを知ってもらえるので有り難く感じるのと同時に、取組が客観的に評価されてよかったと思う瞬間でもあります。

■休日の過ごし方

より健康になろうというのが単身赴任中の目標です。帰省しない週末は、温泉めぐりで心身ともにリフレッシュしています。食事もお食いやスーパーの揚げ物は控え、しかし料理は苦手ですので、自然と納豆、カット野菜、ヨーグルト中心の食生活となり、無理のないダイエットにつながっています。またブリの話ですが、「子ども食堂」にボランティアで参加して、子どもたちにブリ料理を楽しんでもらう機会があり、それは仕事から派生した楽しい時間となりました。



／水産高校でブリを説明／

／子ども食堂での集合写真／



【同僚等との関係】

単身赴任を気遣って、よく上司が家に招いてくれます。その度に、新鮮でおいしい地魚とお酒をたっぷりと振る舞ってくれるわけです。日ごろパターン化された食生活をしている者にとって、これは大変有り難いことです。同僚などと一緒に、すっかりご迷惑をかけてしまっているのですが、いつも気持ちよく酔っぱらせていただいています。

これからのキャリアプラン

水産の技術職ですので、当然、水産関係の仕事に携わっていくことになります。ただ、40歳代半ばで転職したので、道庁での経験と知識の不足は否めません。それを補うためにも、できるだけ早く様々な部署での経験を積みたいと思っています。異動があれば、一からのスタートになるので大変ですが、各部署で多様な知識を得ながら、そこに民間企業で培った感覚をプラスして、自分らしさを出していきたいと考えています。

転職を考えている人へメッセージ

道庁ですずっと働いていたから偉い、民間経験者だからすごい、そういったことをあまり意識することなく働ける環境だと感じています。道職員だからこそできる仕事に、やりがいを感じられそうであれば、きっと転職したことに後悔しないと思います。



経済部産業振興局科学技術振興室 科学技術振興グループ

よしはら ひろき
主事 吉原 大紀(32)

転職したきっかけ（H26年入庁/一般行政A区分）

大学卒業後、電気機器業界の営業として、東京と大阪で4年9カ月働いていました。大学までは北海道から出たことがなく、前職への就職を機に道外の友人が増え、仕事も楽しくできていたため、生活に不満等はありませんでした。

ただ、今後の自分の人生を考える中で、やはり生まれ育った北海道で生活していきたいと思ったことが転職を考えるきっかけでした。

正直なところ、道庁の採用試験を受けた段階では、まだ転職する決心はできていませんでしたが、一次試験会場で大学時代の友人と再会し、その友人と道庁の仕事や北海道に戻ることに話したり、自分と同じく北海道に帰りたいと思っている友人に相談したりする中で、転職する意志が固まっていきました。

H26.4 経済部産業振興局環境・エネルギー室環境産業グループ

最初の勤務先では、環境産業分野において、道内企業が行う製品開発の促進や、製品を道外へ広めるための展示会への出展を行ったほか、道内における水素関連ビジネスの展開を促進するための勉強会の開催などを担当しました。

H29.4 経済部産業振興局科学技術振興室科学技術振興グループ

現在は、室内の予算の執行状況の管理や、科学技術振興計画の策定などを担当しています。電気自動車の普及啓発に関する業務を担当していた際、市町村で開催されるお祭り等に出展し、電気自動車から家電製品へ電気を供給するデモンストレーションを行っていました。お祭りの多い夏場はほとんどの土日がイベント対応で大変でしたが、良い経験ができました。

また、私生活では、H30年7月から半年間は育児休業を取得しました。子育てに専念する中で、世の中のお母さんがどれだけ大変かを実感することができました。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

公務員は基本的に事務仕事で外勤などはあまり無いと思っていましたが、道内各地での会議の開催や、道外展示会への出展など、出張や外勤などが想像よりも多かったです。

また民間企業に比べると真面目な人ばかりで仕事上の付き合いだけといったイメージでしたが、親しみやすい人が多く、自分の職場以外の人とも仲良くなれる機会が多いです。

■印象に残っている業務

積雪寒冷地である北海道では、家庭でのエネルギー消費量が全国平均よりもはるかに多く、その課題を克服するために民間企業と協力して積雪寒冷地型のスマートハウスの開発業務に取り組んだことが印象に残っています。平成30年に全道的な停電が発生し、電気のない生活がどれだけ不便で不安かを道民全員が経験したことと思います。私とその仕事に携わっているときはエネルギー消費量の削減に貢献したいという思いで取り組んでいましたが、全道的なブラックアウトを経験したからこそ、改めて住宅や区画でエネルギーを自給自足できる環境を整備できれば、道民の皆様が生活していく上での不安を少しでも解消できると感じています。

【同僚等との関係】

転職組なので同期の中では年齢が少し上の方かと思っていましたが、意外と年齢が近い同期も多く、飲み会だけでなく、スノーボード旅行に行ったり、フットサルやバドミントンの大会に参加したりと色々なことを一緒に経験しています。また、同期以外でも職場に親しみやすい先輩や後輩が多いため、一緒にお酒を飲みに行くことも多いです。



／休日キャンプ！／

■休日の過ごし方

外でバーベキューすることが好きだったため、北海道に帰ってきたことをきっかけにキャンプ道具を一式購入し、休日はキャンプをして過ごすことが多くなりました。色々なキャンプ場に行ってみたくため、行ったことのないキャンプ場を選ぶようにしています。道職員は転勤が付きものなので、今後転勤を重ねながら道内の色々なキャンプ場を巡ってみたいと思っています。



／同期とスノーボード旅行／

これからのキャリアプラン

道職員になってから環境・エネルギー室、科学技術振興室と2つの職場を経験してきました。どちらの分野も全くの初心者でしたが、勉強を重ねながら業務を進めてきました。自分の全く知らない分野でも勉強すれば何とかなるものです。まだまだ多岐にわたる分野の仕事がある道庁において、特に分野を限らず、また本庁だけでなく振興局の勤務も通して幅広く業務を経験していきたいと思っています。

転職を考えている人へメッセージ

私が民間企業から転職するとき、本当に今の仕事を辞めても良いのか、転職先が道庁で良いのか、とても悩みました。こればかりは、実際に道職員になってみないと答えの出ない悩みなので、悩んでいるならいっそ転職に踏み切ってみても良いのではないのでしょうか。



釧路総合振興局釧路建設管理部
建設行政室建設指導課

はしもと こうじ
建築住宅係長 橋本 幸司 (37)

転職したきっかけ (H22年入庁/上級・建築区分)

22歳で大学を卒業し、28歳で道職員になるまでは、建設会社での施工管理や設計事務所での設計業務などに携わってきました。

転職を考えたきっかけは、経営上の理由などから退職を勧められ2度転職を経験したことや、前職は拘束時間が長く、自由な時間を確保できなかったことがあります。建築技術者として、1つの職場で建築の業務に長く携わり、建築をもっと学びたいという思いと、プライベートの時間も充実させたいという思いから、公務員を目指した結果、道と道以外の公務員に合格しました。どちらに就職するのか最後まで悩みましたが、道職員の友人から、建築でも広い分野に関わり、学ぶことができる職場だと聞き、魅力を感じたこと、両親が北海道のために働くことを喜んで勧めてくれたこと、そして、実際に働いている人の顔を見た時、生き生きと仕事をしているように強く感じたので、道職員となることを決めました。

H22.4 根室振興局産業振興部建設指導課建築住宅係

H24.4 釧路総合振興局釧路建設管理部建設行政室建設指導課建築住宅係

H26.4 建設部住宅局建築指導課建築安全推進グループ→建築企画グループ

係長になる前は、耐震に関する法に基づく規則の制定、補助制度の創設、施策の普及推進のための広告制作や住宅展示場の企画など、建築という分野を通じて、多種多様な業務を担当することができ、充実した時間を過ごせました。

特に、耐震関係の業務では、市町村や民間建築物に対する補助の申請と法改正に伴う制度設計の整理や、道の耐震に係る計画の見直しなど、業務が集中し、忙しい時期もありましたが、周りの方々に助けられ、無事に乗り切ることができました。様々な業務の中で、前職の経験や知識が、内訳書や図面を確認したり、事業者の方々の考えを理解するといったことに大きく役立っています。

H30.4 釧路総合振興局釧路建設管理部建設行政室建設指導課建築住宅係

現在は、建築基準法の審査や検査、公営住宅の整備に関する市町村指導など、管内の建築に関する業務を広く所管しており、係長として、係員の状況を把握し、円滑に業務が進むよう努力しています。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

入庁前は、書類審査が多いと思っていましたが、実際に入庁してみると、審査の他に、会議やイベントの企画、道内で起こっている問題や市町村が困っていることへの対応などの業務が、想像以上に多いと感じました。自分の考えや発想を企画や解決方法などの業務に反映させることができるので、そこが道庁の仕事のやりがいでもあると感じています。

■印象に残っている業務

特に印象に残っている業務は、本庁で担当した、住宅展示場を企画する業務です。道の登録を受けた地域の工務店と建築家がペアを組んでモデルハウスを建築し、モデルハウスのある区画一帯を住宅展示場として、道の施策をPRするもので、入庁する前は想像もしていなかった業務でした。

住宅展示場のコンセプトから、参加事業者を集めるための条件や時期など、課題が多くあり、また、参加事業者が決まってからも、展示場の広告方法やイベントの検討などやらなければならないことが山積みでした。しかし、参加事業者の方々と住宅展示場の開催に向けて議論を進め、協力して広告やイベントを実施していくことにより、HPの作成、住宅雑誌・ラジオCMによる広告やバスツアーの開催など、上司や参加事業者の方々の協力により、無事に業務を進めることができました。関係する皆さまに感謝し、この経験を自分の財産として今後の業務に活かしていきたいと思っています。

【同僚等との関係】

同期で入庁した仲間と連休を利用して、沖縄まで遊びにいったことが良い思い出として残っています。

きっかけは、同期の1人が2年間の沖縄県庁勤務となり、せっかく沖縄に同期がいるなら、遊びに行こうという話が出たことが始まりで、連休に有給休暇を付けて沖縄旅行を企画しました。根室や稚内など色々な勤務地から同期が参加し、多くの仲間と沖縄の自然やグルメを満喫することができました。こうした北海道のために一緒に頑張る同期との関係を大切にしていきたいと思っています。



／同期の仲間たちと沖縄へ！／

動物園で過ごす週末



■休日の過ごし方

結婚前は、水泳やバドミントン、バレーボールなど振興局のサークル活動に参加しており、知り合った人達とライブに行ったり、飲み会を開催したりと地域での生活を満喫していました。

最近は妻が一人で休息できるよう、週末になると、2歳の娘と二人で動物園、プールなど釧路周辺を遊びまわり、休日を楽しんでいます。休暇も取得しやすいので、連休は旅行に出かけ、趣味のスキューバダイビングをするなど、充実した休日を過ごすことができます。

これからのキャリアプラン

建築の技術職としてこれからも建築行政の推進に携わっていきたくて考えていますが、営繕や都市計画関係など、まだまだ経験したことがない業務が多いので、様々な業務を経験することによって、建築技術者として成長していきたいと考えています。

また、業務で関わることが多い、市町村や建築事業者の方々に寄り添って、一緒に課題を解決していきけるような姿勢でありたいと考えています。

転職を考えている人へメッセージ

私は、何度か転職しましたが、前職と仕事の内容が違っても、業務を通じて学ぶことがたくさんあり、自分の成長につながっていること、また、同僚や上司の方々が自分をよく気にかけてくださっていることから、道庁に就職できて良かったと感じています。転職を考えている皆さんは、是非、道庁に興味を持っていただき、検討していただければと思います。



後志総合振興局産業振興部 商工労働観光課

主査 さとう まさよ
佐藤 雅代 (42)

転職したきっかけ (H29年入庁/一般行政C区分)

新卒で入社した外資系コンピューターメーカーに満19年勤務したのち、転職しました。システムコンサルタント、広報、法人向けマーケティング等の業務を経験しています。管理職まで昇進し、充実した毎日でしたが、途中からグローバル企業のあり方や経営方針に疑問を持つことが増え、また当時の仕事もある程度やりきったと思えるタイミングに至ったことから、転職を考えるようになりました。

道庁に興味を持ったのは全くの偶然で、広告で転職フェアへの道庁の出展を知ったためです。調べたところ、当時の年齢でも受験でき、東京でも試験を行っていることから、受験しても損はないと考え、挑戦してみることにしました。大学時代に公務員志望だった時期があり、自分のようにある程度育ちあがってしまった人間でも受け入れてもらえるのなら、人生は一度きりなのだし、やってみたい仕事に挑んでみよう、と思ったのです。給与のことなどは覚悟の上でしたが、札幌に住む両親は大賛成してくれました。

H29.4 後志総合振興局産業振興部商工労働観光課

入庁直後から、「人材確保」という切り口での振興局独自事業を担当しています。冬季のリゾートの季節雇用人材に農業などの仕事を紹介する「しりべし『まち・ひと・しごと』マッチングプラン事業」を推進することが、最初の仕事でした。

2年目からは範囲が増え、管外でのイベント出展や求人PRを通じて外の人材をニセコに呼び込む「ShiriBeshiグローバルワークプレイス事業」や、雇用労政関連業務も担当しています。

私の場合は、プロジェクトの回し方をシステムコンサル時代に、またPRやイベントの運営をマーケティング時代に経験していたので、独自事業には比較的すんなり入っていくことができました。一方で、本来は公務員として主事から経験を積む中で学んでくるべき知識が不足していることから、事務面や判断基準においては我ながら主査の割には覚束ないと思う面もあり、この点はなかなか苦労しています。周りの支援と教えがあって、初めて今の仕事が成り立っているものと思っています。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

正直、公務員になったら毎日机に向かって定型の事務作業をすることになるのかな、と想像していたのですが、自分の場合は最初から自分で情報を集め、考え、企画して、実施するタイプの仕事を与えられたので、予想を裏切る面白いお仕事をいただいた、と思っています。(全てがこういう仕事ではないと思うので、環境に甘えないようにしたいともっています。)

■印象に残っている業務

地域の人材確保という仕事は、企業と求職者の双方と深く関わり、その思いを感じながら仕事ができることが、非常にやりがいがある点だと思います。時にはマッチングがうまく行かず残念な結果に終わることもありますが、良いマッチングが成立したときは、その喜びはひとしおです。また、後志の地域特性として外国人の求職者が多いので、前職で身につけた英語を思いの外使う場面が多いことは嬉しい誤算でした。この1年で、日本人9人、外国人12人に地域の仕事を紹介することができました。業務を通じて海外から来たワーキングホリデーの若者たちと話す機会が増えたことも、自分にとって貴重な体験です。



／ジョブフェアでの様子／

【同僚等との関係】

職場の席の周りには、たまたまお酒の好きな仲間が揃っており、毎週月曜日は「月曜会」と称して、できるだけ定時に帰ってその週のモチベーションを高める飲み会を開催しています。毎回、他課の方を含むゲストをお招きし、いろんなお話を伺ったりしています。…飲みすぎてしまうこともしばしばですが。



／課の忘年会！／

■休日の過ごし方

独身なので、わりと自由に動き回っています。月4回の週末のうち、倶知安の自宅：札幌の実家：その他(旅行など)を2:1:1のバランスで過ごしているので、案外慌ただしいです。倶知安にいるときは直売所で食材を買ったり、道の駅や海を見に行ったりと管内を動き回るときもありますし、家で読書・料理・家事をしたりと、やりたいことはたくさんあるので、退屈を感じる暇がありません。

これからのキャリアプラン

年齢も年齢ですし、一方でまだ2年目なので、今のところは与えられた仕事に一所懸命に取り組んで、その結果組織が求める役割に自分の力が見合うようになれば、それでよいのかなと思っています。まずは、早く主事さんに適切なアドバイスができる程度には事務がこなせるようになりたいです。

転職を考えている人へメッセージ

民間経験者が公務員になるにあたり、「必要なもの＝好奇心と柔軟性」「不要なもの＝無駄な自負とプライド」だと思いました。仕事の中身は間違いなく面白いので私は転職に満足していますが、待遇面も含めて自分が転職時に重視するものは何か、よく考えたうえで検討されるのが良いと思います。転職する前は、「自分のキャリアを生かして道に貢献したい」と漠然と考えていましたが、実際入ってみると、自分のスキルやキャリアを、組織、地域そして道にどのように役立てるかは、自らが積極的に考えて取り組まねばならないことだと気づきました。個人的な考えですが、「自分はこういうことができるのだ」と職場に押しつけるより、元の職場との文化やルールの違いを受け止めながら、客観的に自分が組織にどう役に立てるかを自ら見出してこそ、民間経験者の価値が生きるように思っています。



総合政策部地域振興局市町村課 企画・連携グループ

主査 くにた ひろゆき
國田 博之(44)

転職したきっかけ（H27年入庁/一般行政C区分）

前職は気象予報士として河川・ダムなどの維持管理向け気象予測、マスメディア向け気象解説の業務に従事しました。平成16年4月からはNHK北見局の気象コーナー、平成19年10月から27年3月まではSTVの朝6生ワイド、どさんこワイド!!朝!の気象コーナーで、「お天気キャスター」としてテレビ出演をしていました。

気象情報は生命・財産に直結する非常に重要な情報です。しかし、気象情報の精度や内容が格段に進化する中、危険な現象が予測されても適切な対応が取られず被害の減らない状況を、情報の伝え手として非常に歯痒く感じていました。

行政機関や道民一人ひとりが防災情報を正しく理解し、適切に対応するためには「情報の受け手のレベルアップ」が必要であり、その実現には民間からの提案ではなく、道が施策として実施することが最も効果的と考え、道職員採用試験を受験しました。

H27.4 総務部危機対策局危機対策課防災グループ

初めの2年間は防災教育主査として、避難所運営ゲーム北海道版（D○はぐ）と官民学連携による北海D○防災かるたの作成と普及、防災イベントの実施に奔走し、3年目は風水害対策主査として、防災キャンペーン「まさかは必ずやってくる」を実施しました。

災害対応の際は、気象台発表情報の補足資料を作成して情勢判断に活かすなど、気象予報士の知識や経験をフル活用しました。

H30.4 総合政策部地域振興局市町村課企画・連携グループ

現在は、市町村課の主査として、人口減少の中でも市町村が行政サービスを維持し、事務事業を効果的・効率的に進められるよう、広域連携を促進する業務を担当しています。気象予報士とは全く関係のない業務に見えますが、危機的な未来を想像しつつ、市町村の方々と共に今からできる対応を考えるとという点では天気予報と同じであり、国や道の関連制度を勉強しながら業務に取り組んでいます。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

前職での印象では、道庁は仕事に保守的で堅い人が多く、お金がないことを理由に新規提案には困難が伴うイメージでした。しかし、道庁に入ってみると、個々の職員の柔軟性・応用力は高く、着任して数ヶ月で専門家と堂々と意見を述べ合う職員の姿を多く目にしました。予算要求は確かに簡単なものではありませんが、世間の時流を見て新しい事業をどんどん仕掛けていける点も、外と中ではかなり印象が異なりました。

■印象に残っている業務

入庁1年目、ある上司に「道庁は走りながら考える所だ」と言われましたが、あらかじめ答えを用意するのではなく、考える枠組みや方向性を最初に作り、意見をぶつけながらアウトプットを整えていく仕事が多く、その中で自分の知識や経験を反映させることもできたと思います。

1年目の「Doはぐ」、2年目の「防災かるた」、3年目の「まさかは必ずやってくる」キャンペーンは、前職からの自分の経験や人脈と、道の上司・同僚の皆さんの知識・経験がミックスされた成果で、良い化学反応が起こせたのではないかと感じています。

平成28年8月の未曾有の大雨災害対応を乗り切った冬、ある上司に「(転職は)道とおまえと、お互いにとって、よかったんじゃないか」と言われた時に、自分が選んだ道は間違っていなかったのだと感じたことが、非常に印象に残っています。

【同僚等との関係】

最初は“道職員年齢”が若いぶん、道庁内の有名人の話がさっぱり分からなかったり、他の職員が若い頃に経験していることを経験していない点で同年代の職員と多少の距離を感じることもありましたが、3年経過すると全然気にならなくなりました。

同じ年に社会人経験者として採用された「同期」の存在は、非常に励みになっています。

■休日の過ごし方

前職は平日・土日・昼夜の区別がない業務だったため、カレンダー通りの休日があることで子どもと過ごす時間が増え、泊まりがけで旅行に行ったり、試験勉強を見てあげたりすることができるようになりました。

また、元お天気キャスターという立場から、日々の気象に関する話題を、テレビやラジオで話せないものも含め、自由にブログで発信しています。

＼手稲山登頂しました！／



これからのキャリアプラン

道の地域政策のひとつとして「防災」は重要なテーマですので、今後も初志を忘れず、道の防災力向上につながる取組に関わり続けていきたいと考えています。

平常時は官民の防災レベルアップに関わる施策を道の立場からしっかり提言・遂行し、災害時には被災者ファーストで指示・行動ができる防災行政のスペシャリストに自らがなること、また、そのような人材を道庁の中で育てていくことが、これからの目標です。

転職を考えている人へメッセージ

活躍の場は与えられるものではなく、自ら作っていくものです。「即戦力」という言葉にとらわれず、道内外の現状や道の役割を理解した上で、自らの知識・経験を徐々に業務の中で活かしていくことが大切だと思います。



釧路総合振興局産業振興部林務課

林務係

主任

まえはた
前畑

よしのり
圭則 (33)

釧路総合振興局産業振興部農務課

生産振興係

主任

まえはた
前畑

くみこ
久美子 (34)

転職したきっかけ (一般行政C区分)

○前畑 圭則 (H26年入庁) ※以下、**圭** と表記。

前職では民間企業に勤めていて、社有林の管理業務をしていました。その時から道職員の方々とは仕事で一緒になることがあったのですが、道の林務関係といってもいろいろな仕事があるのだと感じていました。もし今後も林業に携わる仕事を続けていくのであれば、今よりもっと広く北海道の林業に携わってみたいと思い、C区分の採用試験を受験しました。ちなみに、受験当初は誰にも相談していませんでした。採用予定人数も少なく、受かるとも思っていなかったの…。

○前畑久美子 (H29年入庁) ※以下、**久** と表記。

前職は札幌市にある農業団体で総合職として全道の関係団体の指導をしていました。仕事や人間関係も充実していたのですが、先に道職員に転職していた夫から「次の異動で地方勤務になる。仕事を辞めてついてきてくれないか。」「仕事がしたいなら同じ道職員になって、農業の仕事をしてはどうか。C区分なら貴方のキャリアをそのまま生かせるよ。」と勧められました。

そんな折、平成28年北海道豪雨災害が発生。全道の被災地を仕事で回り、北海道農業の持続、振興に根本的な部分で携わりたいと思うようになり、転職を決意しました。

外から見ていた道庁のイメージと実際の違い

圭 一番困惑したのは、お金(予算)の使い方や額が決められていることですね。民間企業にいたときは、ある程度の幅はありますが、必要だから経費を使うという感覚でしたので、「旅費の予算がマイナスになりますか、どうしますか？」と聞いたときの上司の顔が忘れられません。

久 業務により法令が違い、また法令が多岐にわたることです。たとえば人工授精所には家畜改良増殖法、家畜診療施設には獣医療法と、各法令に基づき許可証を交付、届出書を受理します。前職では1つの法律に基づき業務を行っていたので、関係法令の熟知が大変です。

圭 H26.4 水産林務部林務局林業木材課事業体育成グループ



H29.4 釧路総合振興局産業振興部林務課林務係

採用されてから現在まで、森林組合という団体の指導業務や林業・木材産業の担い手確保に向けた業務を行っています。異動しても担当業務があまり変わらないのですが、本庁と振興局では地域との距離も違うので、改めて勉強になることがたくさんあります。森林組合などの職員の方と話していても、林業全般の話はだいたいわかるので、前職の知識が役に立っていると感じます。

業務が忙しくなるのは、担い手関係の業務が立て続けにある10月～12月です。林業体験ツアーや出前講座、会議の開催など、毎週イベントがあり、忙しく過ごします。また、フェイスブックを立ち上げて開催するイベントの紹介や釧路の林業のPRをがんばっています。

久 H29.4 釧路総合振興局産業振興部農務課生産振興係

前職のキャリアを活かすことができる農務課に配属され、生産振興係では、牛乳乳製品の消費拡大などの酪農振興、牛舎の施設整備など国の補助事業の審査・交付事務、種畜検査や家畜伝染病予防事業など、幅広い業務に取り組んでいます。

釧路は酪農地帯なので、酪農畜産に関わる仕事がメインで、直接牛舎に立ち入ることもあり、前職の関係者と仕事をしたことも。係内は私と係長以外20代なので、元気がいっぱい職場で楽しいですよ。

■印象に残っている業務

圭 平成29年度、担い手対策のために業界の方々と連携して協議会を立ち上げたことです。協議会を立ち上げるためには、地域の方々の賛同を得なければなりませんし、事務局が林務課なので、協議会として何をするのか示さなければならず、色々と悩みました。「誰にも賛同してもらえず、会議に誰も来なかったらどうしよう。」とも考えました。

現在、私が担当している担い手対策の業務は、この協議会が中心となって動いているので、今でも関わりが深い分、印象に残っています。

＼ 林業のイベントにて／



久 北海道胆振東部地震の被災地支援の派遣です。この仕事は前職では絶対経験できないものなので、志願しました。震災2ヶ月後の厚真町の避難所運営の仕事で、食事の給仕や清掃指示、入居者、退去者の受付事務などを行いました。避難者の方々は生活に慣れ、落ち着いておられました。防犯や衛生、病気のことには気をつけました。また、積極的にコミュニケーションを図るようにしましたが、小規模なコミュニティにおける自治の難しさを実感しました。

■休日の過ごし方

圭 休日はそれぞれの趣味に時間を使うことが多いです。私は中学生のときからソフトテニスを続けていて、釧路でも社会人チームに入って活動しています。

今年は職場の上司や同僚を中心に登山サークルを結成しました。雌阿寒岳、雄阿寒岳などを登頂しました。来年はランクを上げて、羅臼岳登山を計画しています。

久 以前から馬が大好きで、週一回、釧路市内で乗馬を始めました。講師はバリバリのブリティッシュで、馬場馬術を習っています。釧路で本格的な乗馬ができるなんて思いませんでした。馬好きな地元の友人もできて、乗馬以外の交流も深めています。

【同僚等との関係】

圭 釧路総合振興局には、ソフトボール、ボウリング、ミニバレー、長靴アイスホッケーの各課対抗戦があり、どの大会も二人とも参加しています。こういったイベントがあると、課内の同僚はもちろんです、他の課の人と話す機会ができるのでとても楽しいですよ。

久 昨年初冬、愛車が壊れてしまい、同じ公宅の方や上司に助けられました。「困った時はお互い様だよ。」という言葉は有り難かったです。新車購入時はなかなか踏ん切りがつかず、課長の家で、車のカタログを広げて相談に乗っていただきました。人生の先輩としても、仕事以外のこともアドバイスをもらっています。

＼振興局をあげてのミニバレー大会／



これからのキャリアプラン

圭 互いに農業、林業という一次産業に携わっているので、今後もそれぞれの分野を深めて、北海道に貢献できたらと思います。今後どうなるかはわかりませんが、とにかく今は、自分が持っている仕事を頑張って、自分が求められているところに異動するだけです。意外と転勤も良いものです。

久 私もこのままずっと農政の分野で仕事がしたいと思います。これから責任のある立場となり、お互いの勤務地が離れてしまうことも覚悟していますが、夫婦セットでの人事配置もしてくれるので、あまり心配していません。

振興局内での
＼2人のアバターです／



転職を考えている人へメッセージ！

私たちは二人とも転職して道職員となりましたが、同じ勤務地にしてもらおうなど、色々配慮してもらえていると思います。国が進める働き方改革も取り入れるなど、働きやすい環境整備が進んでいる職場だと思います。道職員にはどうしても転勤がありますが、私たちはお互い道外出身者ということもあり「行ったことがない場所に住める！」と考えてしまえば、案外良いものだと思います。釧路での経験がそうであったとおり、行った先でわからないことや経験できないこともたくさんあるので、それを見つけるのも楽しいですよ。



その先の、道へ。北海道

道職員活躍事例集
(社会人経験者編)
平成31年2月 北海道

【ご意見などがありましたらこちらまで】
北海道総務部人事局人事課人事グループ
電話：011-204-5025
Email：somu.jinji10@pref.hokkaido.lg.jp